

日時 令和2年2月26日（水曜日）

午後7時～8時30分

場所 区役所3階会議室

【議題1】 妊娠期からの切れ目のない子育て支援について

- ・里帰り出産される妊婦がかたくさんいると思うが、そういう方が都島区に帰ってきたときに、友達がいなかったことがすごく多い。私自身もそうだったので、孤独な思いをした。赤ちゃんや子どもが小さいときは外に連れ出す機会もすごく少ない。最近になり子育てプラザを知った。もっと周知したほうが、里帰り出産をした妊婦にはいいと思う。
- ・[区役所] 子育てプラザなどの資料は母子手帳交付時にお渡ししているが、なかなか目に留まりにくく、わかりにくい部分もある。里帰り出産する妊婦には都島区に戻ってきたときに気になることを確認しながら、できるだけスムーズに都島区での子育てができるように検討していく。
- ・土曜日も就労している妊婦はいると思うので、土曜日に実施している妊婦向け事業について、日曜日に実施することもいいと思う。
- ・[区役所] 体制的なことも踏まえ、検討していく。
- ・周囲が妊娠に気づかないときの母子手帳の交付までの役所とのつながりはどうなっているのか。
- ・[区役所] 妊娠を周囲に相談しづらい事例もあり、妊娠していても母子手帳を持っているかどうかはわからない。結果、妊娠届の提出が遅れることもある。そういった妊婦への母子手帳の交付には苦慮している。
- ・どの地点で母子手帳は交付されるのか、また全ての人に確実に交付されるのか。
- ・[区役所] 妊婦が医療機関を受診するときは母子手帳が必要になるので、持参しない妊婦には医療機関から母子手帳を交付してもらうよう、指導がある。また、妊娠しているにも関わらず、母子手帳を持たない妊婦に対し、関わりのある支援機関からの情報提供などにより妊婦と役所がつながるよう工夫している。妊娠中も出産後も信頼関係を構築することが重要だと考えるので、デリケートな部分について考慮しながらうまく支援につながるよう対応している。
- ・妊娠や育児について、周囲にそのことを知っている人をいかに増やすかが問題だ。
- ・夫婦間で子育て中の妻の様子がおかしいと夫は把握できるのか。
- ・[区役所] 母子手帳交付時に保健師との面接で妊娠中はホルモンバランスの関係などで心も変化する、コミュニケーションを取ることが大事などと説明したうえで「パパと子手帳」を交付

している。

- ・[区役所] 区では土曜日にプレママセミナーを開催している。市でも日・祝日にプレパパ・ママセミナーを開催しているので保健師の面接では夫婦での参加を促している。
- ・セミナーなどに参加できる人たちはそれなりのコミュニケーションを取れていると思うが、来れない人をいかにフォローするかというのが一番問題だと思う。
- ・出産した人を把握して、フォローをどうするのか。
- ・[区役所] 産後1か月後ぐらいに新生児の全戸訪問という形で助産師、保健師が訪問している。また、区内の保育所などを借りて助産師も参加のベビーふれあい教室も開催している。訪問時にベビーふれあい教室への参加も促している。
- ・子どもの発達の課題について親が認めない場合、親が気づく機会があればいいのでは。

【議題2】 児童虐待防止対策の充実について

(福祉コーディネーターについて)

- ・保育所など、いろいろな場に出て行って活躍してほしい。
- ・地域によって、認知度に差があるのではないか。
- ・社会福祉協議会と連携して有効活用してほしい。

(児童虐待について)

- ・守秘義務もあり、主任児童委員、民生委員、学校など地域の連携を図ることが難しい。
- ・児童虐待は、自分とは関係のない特別なことのように思われているかもしれないけれど、普段からどれだけ子どものことを考えて接しているのか。気づいてもらう何か催しを行い、子どもの権利について気づいてもらいたい。
- ・【区役所】 相談しやすい人と解決できる人が違うことがあり、相談しやすい人が解決できる人にどのようにつなぐかが大事。
つないでいくために、事例を紹介することなどが必要だと思う。
また、つないでいくことができるネットワークの構築も必要。